

不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします





兵庫県立但馬やまびこの郷

http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/ E-Mail Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

子どもの心に寄り添う支援とは

8月30日(土)・31日(日)、やまびこ親の会を開催しました。県内各地から不登校児童生徒の保護者25名が参加されました。お互いに情報を交換したり交流を深めたりするとともに、子どもの理解や学校復帰に向けた支援等について学ぶ場となりました。

今持っているものを大事に(講演会)

人は生まれながらに持っている個性があります。 "心に寄り添う"とはその個性に寄り添うことと考えています。子どものタイプには3タイプ(①扱いやすい子②扱いが難しい子③何事にも時間がかかる子)あり、40パーセントは扱いやすい子ども、60パーセントは何らかの困難さがあります。大人は扱いやすい子のテンポにのせたいと思いますが、そうすると、子どもは無理することを覚えます。無理をさせないでちょっとだけ、その

子の持っているものの上を 要求するのです。大きな要 求をしないで、今持ってい るものを大事にしていくこ とが大切なのです。



悩んでいるのは 自分だけではない(保護者交流会)



「他の保護者の方の話を聞けて、 焦っていた気持ちが少し落ち着い た」「本音で話ができた」「進路に ついて OB の方の話がとても参考に なった」など、悩んでいるのは自分 だけではないと、安心できる機会に なりました。

苦労した分だけ良い家族になる(座談会)

保護者の方に「子どもへの接し方で一番気をつけていること」を伺いました。「あなたが何より一番大事という気持ちで接している」「子どもの気持ちを最後まで聞くようにしている」「にこと笑顔で接し、些細なことでもほめている」「子どもの興味のあることを一緒にして、共感しようと思う」「子どもの意志を大切にしている」などが出ました。

当所所長のまこさんからは、「親のパワーが強かったり、弱かったり、子どものパワーが強かったり、弱かったり、家族内のパワーの組み合わせはいろいろです。パワーの強い子は自己主張できますが、弱い子は出せないままになりがちです。不登校の子どもが悪いのではありません。家族全体の問題ととらえて解決していくことが大切です。家族みんなで苦労した分だけ、きっと良い家族になっていけますよ」という助言がありました。

まこさんからのメッセージ

不登校の子どもの心によりそう

思事期の 子どもを支える



兵庫県立但馬やまびこの郷所長

佐藤 眞子

こども、こどな、ことな、おとな・・・・ よく知られているように、思春期・青年期は子どもから大人への移行期です。この時期は、古くから「疾風怒涛」と言われてきましたが、何ともやっかいな時期かもしれません。幼虫がさなぎに変態して蝶になるように、人は思春期・青年期を経て大人になるのです。このさなぎの時期を硬い殻の中でどのように過ごしているのか、心身の発達によって起こるさまざまな出来事は一人一人異なっていて、大人が彼らを支える方法も一様ではありません。不登校の子どもは思春期の子どもばかりとは限りませんが、思春期の子どもが多いことは事実です。この思春期においては、はたして何が危機なのか、大人はどうかかわるのがいいのかを考えてみることにいたしましょう。

思春期は「危機」なのでしょうか?

自分自身の思春期がどのようであったか、私たち大人は思い出すことができるでしょうか。学校帰りに毎日友だちと遅くまでしゃべっていた。朝から暗くなるまで、部活でがんばっていた。塾通いが忙しかった。アニメにはまっていた。好きな先輩にあこがれていた。気に入らない先生に反発した。喧嘩して友だちに殴られた・・・。

「それはおよそ善き時代でもあれば、およそ悪しき時代でもあった。· · · 光明の時でもあれば、暗黒の時でもあった。希望の春でもあれば、絶望の冬でもあった。」

(ディケンズ『二都物語』中野好夫訳 新潮社)

輝かしい喜びと絶望的な惨めさと、過剰な尊大とほろ苦い侮辱と、揺れ動く気持ちを持て余して、 ただただ歩き続けたり、涙を流したり。でもとにかく何とか乗り越え、そして大人になった・・・。

思春期であるがゆえに生じるさまざまな「現象」は、特別な現象ではなく、だれにでも生じるものですから、大人が過剰な反応を示すことは避けるべきかもしれません。しかし、落ち込みから始まっ



て、食欲不振、不眠、被害的思考、他罰的思考、意欲減退、強い反抗、不登校、 暴力、非行、退行(幼児化)、自傷行為等々、さまざまな形をとって表面化 してくると、やはり大人による適切な援助が必要になってきます。

思春期は生理的にも心理的にも、確かに自他ともにハラハラするような 危機をはらんでいますが、危機は危険+機会(チャンス)でもあります。 危機は好機と言われるように、危機なしには人間の成長はあり得ないと考 えることで、希望を抱くことができるのではないでしょうか。

思春期と親の対応は?

「子ども思春期、親更年期」という言葉がありますが、思春期危機の家族は、 更年期危機の家族でもあります。二つの危機が一家の中に同時に存在する ので、話がややこしくなることも多いのです。

20 歳を超えた大学生たちに思春期の頃のことを尋ねると、「何も考えていなかった」という学生もいますが、多くが「あの頃は結構大変だった」と答えます。摂食障害とか、不登校を経験した学生も少なからずいます。

心理学を専攻している学生は、「結局、あの頃は親にもっと注目してほし かったということなのかな」とか、「親の脚本通り歩いている自分が嫌だったんだと思う」と自ら分析する学生もいます。「今になって思うと、親も生き方に迷っていたんだと思うけど、そんな親を認めたくなかった」などと、うがったことを言う学生もいます。

イギリスの精神分析医ウィニコットは思春期の特徴を「両価的」としています。

「甘えたいけど甘えたくない」

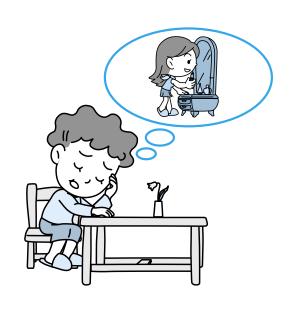
「学校へ行きたいけど行きたくない」

「友だちとかかわりたいけどかかわりたくない」

「目立ちたいけど目立ちたくない」 などなど、

どの局面でも両方の気持ちがあり、どちらか分からずに混乱しています。親や周囲の大人は、「どっちやねん」と困惑することも多いのですが、「どっちか分からない」というのが本当のところなのではないかと思います。

親はむやみに非難したり、いやみを言ったりするのではなく、子どもの話をよく聞き、子どもを尊重すること。過度に干渉したり、逆に放任したり、無視したりするのではなく、理解し、共感し、認め、励まし、見守ろうとすること。世間体や他者の「まなざし」にとらわれることなく、子どもを信じること。それでも、苦しくなれば、親もだれかに悩みを聞いてもらうことが大切です。



今は一緒に歩いてゆきましょう

嵐吹き荒れても望み奪われても
悲しみは通り過ぎゆく
日も輝くだろう
陽気にゆこう

「陽気にゆこう」(高石ともや訳詞)



フォークシンガー高石ともや氏は歌いあげます。愛して、慈しんで、大切に育ててきた子どもが立ちどまったとき、思春期の身体はもうすっかり大きくなっていますから、親が前に立ってひっぱることも、後ろから追い立て、押したりすることも、できなくなっています。

でも一緒に歩いてくれる人がほしいと思うのは、親も子どもも同じでしょう。 「日が輝く」まで、子どもから少し離れて、でも彼らの傍らを歩いてみましょう。 今は一緒に、見守りながら、見守られながら、歩いてゆきましょう。

思する踏みだ

平成 26 年 10 月 26 日 (日)、 但馬やまびこの郷を 会場にして、県民交流事業「やまびこフェスタ ~心 の虹を未来へ」を開催しました。当日は、地元の朝来 市山東町の皆さんをはじめ、県下各地から280余名 の参加があり、大盛況の1日でした。



対談では、小中学校時に不登校であり、現在社会人として働いている20代の男女3名の方から、 当時の気持ちや現在の心境などについて話をうかがいました。

「思い悩む時期もあるが、一人じゃない。一歩ずつ踏み出そう」とメッセージが送られました。

やまひそでは

「やまびこでは、自分と同じように悩んでいる仲間がいて勇気づけられた。早起きをするとか 勉強を始めるとか、苦しいことを乗り越えた経験は自分の強みになる」

「近所では人目を避けていたが、知っている人のいない遠くに来ると、普段言えないことも話 せた。その時に、一人じゃないんだと思えた」

「やまびこで友人や理解者が増え、明るく元気な自分になれた」

当時の思い

「両親が心配しているのを見るのがつら かった」

「親戚から詰問されている両親を見るのが つらかった丨

「家族に対してできる限り明るく振る舞 い、元気な自分を演じていたし

「不登校になったから、今の自分がある」 「嫌なこと、つらいことがあっても、必ず 乗り越えられると思えるようになった」 「支えてくれた人たちに感謝し、今教師を 目指している」





平成 26 年 11 月 30 日 (日)に、不登校生徒を 積極的に受け入れている 10 校の高等学校等によ る情報提供と個別相談 会を実施しました。当 日は生徒・保護者60余 名が参加され、熱心に 相談される姿が見られま

した。不登校であっても、多くの子が進路を実現させていま す。(図1)あきらめず、一緒に考えていきましょう。当所では、 進路先の情報提供、進路相談も行いますので、ぜひ気軽にご 相談下さい。

●進路先内訳

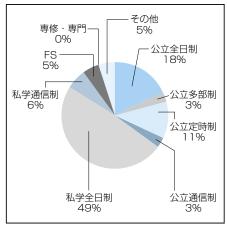


図 1 〈平成25年度但馬やまびこの郷利用者の進路先〉



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」No.37 ●平成27年1月

●兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒 669-5135 朝来市山東町森字向山 45-101

● TEL (079) 676-4724 ● FAX (079) 676-4721 リサイクル適性(A)

26 教P2-026A4